



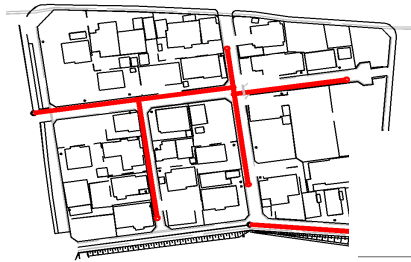
位置図

地区名 掛川地区
 会社名 株式会社 藤本組
 執筆者 轆轤拓夢

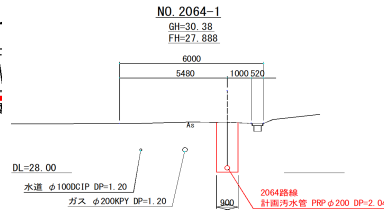
§ 1 工事概要

工事目的	この工事は掛川市下水道課の事業計画の一環として、汚水を衛生的に処理するための管渠工、舗装復旧工を行う工事である。		
路線名	市道水垂北門線、ほか4線	(税抜)	
工事場所	掛川市 御所原 地内		
工期	自 令和3年9月28日 至 令和4年2月28日		
受注金額	右表のとおり		
発注者	掛川市上下水道部下水道課		
受注者	株式会社 藤本組 現場代理人：轆轤拓夢 監理技術者：川隅好幸		
工事内容	管渠工 PRPΦ200 L=287m 取付管およびます工 N=19箇所 マンホール工 組立1号マンホール N=8箇所 舗装復旧工 A=1521m ²		

	当初	最終
契約金額	35,900,000	31,400,000



管渠工 平面図



管渠工 断面図(代表箇所)

着手前



完成



§ 2 現場における問題点

- (1) 地域住民、デイサービス等の車の出入り時の事故防止**
 - 管渠工および舗装復旧工を行う際に民家の前を塞いでしまう。地域住民にはデイサービスを利用している方も多く、各家庭への施工日程および仮駐車場の周知が不可欠となる。
 - 本工事は住宅地内で行う工事であり、施工時の通行止めおよび片側交互通行規制により交通渋滞や衝突事故等の問題が発生する危険性があった。
- (2) 水替え排水による側溝内の泥および砂の堆積防止**
 - 現場となる御所原地区は、元々田んぼや大きな池があった場所を埋めて作られた土地であり、管渠工の床掘時に多量の水が出てくるのが事前調査で分かっていた。
 - 床掘時の水替え排水を道路脇の側溝へ流す際、吸い上げた泥や砂が側溝内へ堆積することへの対策を講じる必要があった。
- (3) 土砂の崩壊による災害防止**
 - 本工事では下水管を下流から連続して敷設していく際、下水管の左右に土留支保工を行う設計になっている。
 - しかし(2)で触れたように土中の含水量が多く地盤が弱いため、下流側から前日に埋戻した土砂が崩壊してくる危険性があった。

§ 3 対応策・改善点と適用結果

(1) - 1 地元説明会による工事内容の事前周知

- ・工事概要と日程、仮駐車場の位置等を含む資料を作成し、発注者との打合わせの中で本工事の注意点および伝えるべきことをまとめた。工事着手前に発注者（掛川市下水道課3名）、受注者（藤本組3名）、地域住民（御所原地区在住18名）の三者による地元説明会を行った。
- ・説明会により、地域住民に工事への理解をしていただくことができ、また受注者と地域住民との顔合わせができたことで、良好な関係づくりの第一歩とすることができた。



地元説明会の様子



配布した資料

(施工時期ごとの色分け、仮駐車場位置の図示)

(1) - 2 工事チラシによる定期的な工事情報の周知

- ・月に1度配布する工事チラシ「げんばかわら版」にて、今後の工事予定を発信することで、各家庭で車を移動させる時期をより詳しく知らせることができた。またチラシ内に施工状況写真を載せることで、工事に興味を持っていただきコミュニケーションのきっかけとすることができた。
- ・チラシの配布時に、住民からデイサービスを利用する日時を確認し、作業開始時間や休憩時間を調整することでスムーズな現場管理をすることができた。



配布したげんばかわら版
(施工時期ごとの色分け)

(1) - 3 平面図を用いた危険箇所の周知

- ・朝礼時に、その日の作業場所および規制内容、交通誘導の合図やルートを平面図を用いて説明することで、作業員全員に作業のイメージを共有させた。これにより一般車両及び工事車両の交通誘導をスムーズに行うことができ、交通渋滞や衝突事故等の苦情が出ることなく工事を終わらせることができた。



新規入場者教育時の周知



朝礼時に使用した資料
(危険箇所ハザードマップ)

(2) 自作のろ過装置による水替え排水のろ過

- 床堀時に排出された水を道路脇の側溝へ流す際、直接側溝へ排水せずろ過装置を通すことで側溝内へ泥および砂が堆積することを防ぐことができた。また汚濁水をろ過してから側溝へ流すことで自然環境に配慮していることをアピールでき、地域住民に対して建設業のイメージアップにもつながったと考える。



使用したろ過装置



ろ過装置によるろ過状況

(3) 下水管敷設後、埋戻し前に上流端部に土留を設置

- 下水管敷設後、上流端部に土留を設置し埋戻しをすることで、次スパンの床堀をする際に下流側の土留として機能させた。これにより下流側からの土砂の崩壊を抑えることができ、重大な建設災害の一つである土砂災害の危険の芽を摘むことができた。



埋戻し前、上流端部に土留を設置



次スパンの床堀時、下流側の土留として機能

§ 4 終わりに（今後の留意点）

建設業に関わりを持たない方からの建設業に対するイメージとして、明るい、元気がいい、精力的などプラスのものもあるが、昔から言われている3K（きつい、危険、汚い）や、すぐ怒る、荒っぽいなどのマイナスなイメージもまだ根強くある。特に本工事のような住宅地内で施工する際には普段通っている道が通れなくなったり家で休んでいても騒音や振動があったりと、地域住民の方にストレスを与えてしまうため、地域住民の方との良好な関係を築くことが大切であると考えます。

そこで本工事では、(1)で触れたような地元説明会や定期的な工事情報の発信など、地域住民への対応を第一に工事を進め、事故や苦情なく工事を終わらせることができた。また(2)で触れたような環境への配慮や、作業場所・現場事務所周りの整理整頓、作業員に対して地域住民へ丁寧に対応するよう指示するなどの気配りにより、地域住民への建設業のイメージアップにつながったと考える。

建設業にとって地域住民との関係は切り離せないものであるため、今後も工事では地域住民を第一と考え、建設業のイメージアップに貢献していく所存である。